

2023年度 茨城キリスト教学園中学校 自己評価表

目指す 学校像	本校は建学の理念であるキリスト教精神に基づいて、豊かな人間性を育むことを目指しています。 本校の教育目標は「心豊かで実力のある自立した国際人の育成」にあります。 (1) 自己の確立 ・ ・ ・ ・ 神を敬い、自分を大切に、良い目的を持つ人生を志し、勉強に励む生徒を育てる。 (2) 人類愛・社会性の育成 ・ ・ ・ ・ 自分と同じように家族・友だちを大切に、さらに国際人として世界の人々を愛せる生徒を育てる。 (3) 個性の伸長と進路実現 ・ ・ ・ ・ 自分の能力・個性を伸ばし、進路実現のために意欲的に取り組める生徒を育てる。
------------	---

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
三つの重点項目を中心に、生徒・保護者・教職員の共通理解の下で種々の教育活動を実践しつつ一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層ひとりひとりの生徒を大事にしたきめ細かな計画・実施・点検が必要である。	キリスト教教育に基づく豊かな人間教育	①礼拝、宗教行事等の活動を通して、豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ②宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③豊かな情操と福祉の心を育てるための方策を具体的に推進する。
	国際教育と英語教育の強化	①国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めると共に、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ②生徒の発達段階や実態に即した指導計画を作成し、教育活動全体を通して、国際教育を進める。 ③留学や研修などの国際交流教育を具体的に進め、異文化体験を通して豊かな国際性を養う。 ④外国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
	学力の向上と進路指導の充実	①基礎的・基本的な事項を確実に身につけさせると共に、自主的学習の態度を養い、創造的な力を高め、進路実現のための実力を養う。 ②各教科で指導内容、指導計画の見直しを行い、一層の応用力の発展を図る。 ③学習指導法の工夫、改善を図り、個人差に応じた指導を進める。

項評 目価	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度への課題
第 1 学 年	1. 基本的な生活習慣を身につける 2. 思いやりを持ち、お互いを尊重しあう人間関係を構築する 3. 意欲的に学習に取り組む	①状況に応じた挨拶・言葉遣い・しぐさができるようにする。時間や公共マナーを守り、けじめをつけた行動をできるようにする。日々の整理整頓を心がけ、自己管理ができるようにする。 ②それぞれの個性を認め、思いやりを持って接する態度を養う。自分の言葉や行動に責任を持ち、相手を許す気持ちを持って周囲に接することができるようにする。 ③教員の話をよく聞き、積極的に発言し授業に取り組めるようにする。家庭学習時間（最低2時間）を確保し、基本的な学習習慣を確立する。学習の土台〔課題を確実に行う・提出物の期限を守る・小テストに真剣に臨む〕を築く。	4	4	①自律的に行動できる部分が増えてきていると感じるが、忘れ物、なくしものが頻繁にある。日々の整理整頓の指導を継続していく。また、時間に関しては、休み時間と授業の切り替えをよりスムーズにできるよう継続して指導したい。 ②自分の気持ちを優先し過ぎることによる衝突が多いように感じる。相手の気持ちを考えるよう指導。 ③学習習慣の向上を感じているが、左記の学習の土台の甘さが多く見られる。引き続き様々な場面での指導。
第 2 学 年	1. 基本的な生活習慣を確立させる。 2. 相互に尊重し合える友人関係を構築させる。 3. 学力の育成と伸長を図らせる。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。 ②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。 ③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げ、毎日2時間以上の家庭学習を目指す。 ④教科書や授業だけでは得られない様々な教養を涵養する。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	4	4	①自己管理の不得手な生徒への指導の充実。生徒を子ども扱いしない。その上で、自律を支援する。 ②他者の個性を受容する学年全体の雰囲気さらなる醸成。 ③学習指導の充実。私立中学の3年生として相応しい学力の伸長。 ④一貫校ならではのアカデミックな学習活動や研修旅行に向けての探究活動の推進。
第 3 学 年	1. 基本的な生活習慣を確立させる。 2. 他の人への思いやりと感謝の気持ちを持たせる。 3. 意欲を持って学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 4. 読書に親しみ、継続して読書する習慣をつける。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。 ②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。 ③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げ、毎日2～3時間以上の家庭学習を目指す。 ④教科書や授業だけでは得られない様々な経験や知識を、読書を通して自分のものにさせる。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	4	4	①学ぶ意欲の差がそのまま学力差を拡大している傾向がある。将来の進路設計を明確にさせ、学ぶ意義を再認識させる必要がある。 ②欠席を重ねる生徒への面談等のフォローアップ。

宗教	年間テーマの「隣人を愛する」を指針とした活動を通して、互いに認め合い、他者のために心を働かせ、行動し、他者と共に喜び生きていくことができることを目指す。	①放送礼拝の充実：生徒たちが静まって自分を見つめる時間を大切にする。	5	5	①クリスマス礼拝において、クリスマスの出来事を通してクリスマスの意味や建学の理念を考える機会となるように、さらに工夫していきたい。 ②キリスト教週間をより充実させたものにするための工夫を検討していきたい。
		②集合礼拝の充実：中高教職員の他、学園チャプレン、近隣牧師、大学職員の方など、様々な方からみ言葉を聞く機会を持つ。	5		
		③キリスト教週間の充実：今年度のテーマ「隣人を自分のように愛しなさい」について学ぶ。	4		
		④クリスマス礼拝の充実：本校の意義ある学校行事としてキリスト教的意義を学ぶ。全校生徒が役割を分担し積極的に参加できるように図る。	5		
教務	1. 学校における教育活動全般を統括するために、各学年・分掌等と連絡を密に取り、迅速な調整を行う。 2. 学校全般の教育活動が潤滑に進められるように、教務関連業務の効率化と省力化を進める	①教育活動全般が円滑に進むように、各学年・分掌と連絡を密に取り、必要に応じて迅速な調整を行う。	5	5	①関係分掌と連携し、Classiや校内掲示等での情報提供の充実。 ②中高プロⅡ（教務システム）の適正な管理。 ③生徒の実情に合った評価・評定のあり方の検討。 ④曜日間での授業時数のバラツキの是正。 ⑤設備・教具など、ハード面の保守・修繕。
		②情報システム部と連携して出席管理・成績処理・帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化と省力化を図る。特に、昨年度から運用を開始した教務システム（中高プロⅡ）の不具合（通知表・指導要録等）の改善を図る。	5		
		③中学校教職員のi-Pad導入5年目に伴い、配付資料等のペーパーレス化をさらに促進すると同時に、配信データの管理・保存方法・ルール化について検討・提示する。	4		
		④生徒用i-Pad導入3年目ということで、関係分掌と連携して効率的な使用方法や管理方法・保守について最新の情報を提示する。	4		
		⑤年間行事計画を基にして、月毎の詳細な計画を立案する。	5		
		⑥時間割調整は勿論、授業時間数の確保に努め、十分な学習活動が展開できるように努める。	5		
		⑦保健美化部と連携して教育活動に関連する環境整備に努めると共に、教員が教育に励める庶務内容をより充実させる。	5		
進路指導	各学習段階に応じた進路指導の計画を立て、実施する。	①キャリア教育を発展していけるよう検討する。	4	4	①今年度は、卒業生にも講演をお願いすることができてよかった。次年度も継続する。 ②探究活動は簡単なものから中学生のうちに取組ませたい。
		②各学年とも「三者面談」を計画し、実施する。	5		
		③「全学年 進路ガイダンス」（一貫卒業生から学ぼう）を計画し、実施する。	5		
		④探究活動を実施できるように検討していく。	3		

学習指導	各学習段階に応じた学習指導の計画を立て、実施し、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	①「家庭学習の記録」を全学年で実施し、学習習慣の確立を図る。ロイロノートで収集した情報を生徒面接・保護者面談の資料としても活用できるようにする。	4	4	①放課後の講習のシステムを変更したが、次年度はさらによりものになるよう検討していきたい。 ②定期試験、校外模試への取り組み方をさらに徹底して生徒に伝えていくようにしたい。
		②学力向上を図るため、基礎力養成ゼミとハイレベルゼミを計画し、実施する。	4		
		③中学校課程学力確認試験を実施する。また、学力不振者に特別補習を行う。	4		
		④実力試験を計画し、実施する。	5		
		⑤学力推移調査を計画し、実施する。	5		
		⑥「3年 一貫高2生から学ぼう」を計画し、実施する。	5		
生徒指導	1. ひとりひとりの自主性・自立性を育て、中学校生活の充実と人格の育成に努める。 2. 本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため、側面から援助する。 3. 指導内容の共通理解をし、共通行動をとれるようにする。	①挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	4	4	①左記の①～⑤について検討を継続する。 ②登下校中に電子機器を利用している生徒に対してどのように指導していくが検討する。
		②生徒心得に基づいた中学生らしい端正な容姿を守らせる。	5		
		③学年・学級担任と連携することにより、生徒の問題行動等に対し、事前・事後にわたって効果的に対処する。	5		
		④いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見、早期対応により早期解決を図る。	5		
		⑤インターネットや携帯電話を使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	4		
特別活動	1. 行事、委員会活動の充実を図る。 2. 生徒が自主的に活動できる環境作りをする。 3. 信愛会役員がより積極的に活動できるように指導、支援する。	①行事や諸活動において、学級や委員会で目標・計画をたて、それに従って活動できる体制を整える。	4	4	①コロナ以後、各委員会の活動が休止している状況もあり、次年度は再度見直したい。 ②iPadなどを上手に活用し、信愛会役員の自主的な活動につなげていく。
		②信愛会役員の自主性を育て、自主的かつ主体的な活動ができるよう支援する。	4		
国際教育	生徒が進路を考えていくに当たり、自国の文化や海外についての理解を深め、視野を広げていけるよう指導する。	①短期留学生の受け入れについて i. 国際教育部の担当者、及びその他の校内協力者による特別授業を行う。 ii. 受け入れに際しての説明会を実施し、高等学校とも連携しながらホームステイ制度の充実を図る。	5	4	①コロナ禍を経て、豪州の姉妹校との交流が再開したことが一番大きな出来事であり、次年度もより一層充実したものにしていきたい。 ②春の米国短期留学については、再開のめどが立っていないが、代替案を含め、よりよい形での実現を目指す。 ③留学プログラム以外の国際理解教育を充実させていくことが、次年度以降の課題である。
		②短期留学生の派遣について i. 派遣生徒を精選し、留学制度を一層充実させる。 ii. 派遣生への事前指導と準備、事後指導を（高等学校と協力しながら）十分に行う。 iii. 十分な指導と準備をするために早目に引率者を決定する。 iv. 引率の手引を作り、引率者の負担を減らすよう努める。	4		
		③自国の文化や海外についての理解を深める機会の提供を行う。例えば、学年や全学年規模の講演会や、希望者参加の英語プログラムなど。	3		

教育相談	1. 教育相談の立場から、明るく安心して登校できる学校・学年・クラスの雰囲気づくりのサポートを組織的に行い、良好な人間関係を築けるよう働きかける。 2. 悩みや問題を持つ生徒が、学校生活に適應できるよう、組織的に援助する。 3. 生徒の成長を援助できるように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。	①生徒が安心して学校生活をスタートできるよう、新入生に対し、教育相談オリエンテーションで本校の相談体制を身近に感じられるようにし、構成的グループエンカウンターで仲間づくりのアシストをする。また、その後のフォローアップ活動を行う。	5	4	①入学直後の新入生に対しての行事が多い中、なるべく早く生徒の不安を減らしていけるよう努力する。 ②各種検査実施後の結果の活用法については、現場にとってどのような形が一番良いのか検討をする。
		②中学校ワイド相談（エゴグラム）を実施し、生徒に自己理解を深める機会を提供する。	5		
		③個々人の特性を知る、悩みの早期発見、日常の生徒観察の一助として、知能検査、心理検査、Q-Uアンケートを実施する。また、結果到着後に、要配慮者の確認を行う。加えて、いじめ対策としての学びの場の提供を行う。	4		
		④教育相談部だよりを発行し、安心して生活できる場を作り上げる方法や、メンタルヘルスクエ方法を紹介することで、生徒自らの心のケア能力の向上を図る。	4		
		⑤スクールカウンセラー、養護教諭との連携を密にして情報の共有化を図り、問題を早期に発見し、適切に対応する。また、状況に応じて、特別支援会議や関係教職員対応会議を実施する。	4		
		⑥教育相談に関する研修に参加し、動向や対応について学ぶ。	4		
保健美化	1. 美化：校内の環境整備、校舎内外の清掃・美化を徹底して行う。 2. 保健：心身ともに、健康な生徒を育成する。教室の換気等、健康に生活するための環境を整える。	①衛生消耗品や清掃用備品などの点検補充を行う。	5	4	①校内土足可に伴い、靴底の擦れによるゴムの付着が問題だったが、学年ごとの奉仕活動等できれいにすることができた。 ②衛生消耗品などの種類を絞り、補充が行き届くようにできた。
		②通常清掃、大掃除時の計画や清掃方法を周知し、美化活動の効率化を図る。	4		
		③身体計測や諸検診などを効率的に実施する。	5		
		④校内の環境衛生について、教室の換気等、生徒全体で円滑に行えるよう指導する。	4		
図書館	1. 生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 2. 利用しやすい学習・情報センター 3. 各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	①蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5	4	①感染症対策に配慮した図書委員会活動 ②読書講演会等の中高大連携推進 ③全国学校図書館研究大会等の実践発表
		②諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		③図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	5		
		④ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	4		
		⑤図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	4		

渉外	1. 肩羊会会員の活動の場としての体制を整備する。 2. 肩羊会の活動を通して、生徒の学校生活の充実を図る。 3. 保護者の研修・情報交換の場としての充実を図る。 4. 諸活動の効率化をはかり、より楽しく活動できるように工夫する。	①本部役員を中心として諸活動を充実させる。	5	5	活動内容や委員数などを見直して、より良い活動ができるように工夫していく。
		②学年委員会は、学年肩羊会活動の企画運営にあたる。	5		
		③総務委員会は、肩羊会総会の際に受付や進行を行う。	5		
		④研修委員会は、教育講演会の企画立案を行う。	5		
		⑤環境整備委員会は、校舎周辺の花壇・プランターの整備を行う。	5		
		⑥厚生委員会は、校内発表会に生徒用弁当等の手配・配布をする。	5		
		⑦校外指導委員会は、登下校の指導・駅前指導を行う。	5		
		⑧広報委員会は、年3回の広報誌の作成を行う。	5		
情報システム	1. HPの充実 2. 授業でのICT活用の推進	①HPでの学校行事等の更新の迅速化	5	4	①本校の良さを外部にアピールできるよう、HP上での行事のトピックスを迅速に更新する。 ②入試広報等と連携し、受験生にとってアクセスしやすいHPを作る。
		②HP上で提供する情報の拡充	5		
		③パワーポイントやインターネットの授業での活用の啓蒙活動	4		
		④情報教室・英会話教室など生徒用PCの適切な管理	3		
入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、小学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	①PR効果のある学校案内パンフレット・ポスター・ちらしを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるように努力する。	5	4	①急速な少子化が進行する中で、志願者・入学者を確保するためには、学校への評価・信頼が安定する必要がある。そのためにも、継続して周囲との信頼関係構築に努力する。 ②県立中高一貫校の増加に伴い、「私学」のよさを、今まで以上に発信する。
		②校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	5		
		③学校見学会・入試説明会等や学園祭の内容を充実させ、多くの児童とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		④関連部署と協力し、中高入試広報部が一体となり、学外広報に努める。	4		
		⑤生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		

国語	1. 自分の思考や感情を、「ことば」を使って効果的に「話す」「書く」能力を養う。 2. 相手が伝えようとしていることを、その意図を理解しながら正確に「聞く」「読む」能力を養う。 3. 漢字を正しく理解し的確に使えるようにするとともに、語感を磨き語彙を豊かにさせる。	①音読、正確な読解、自分の意見のまとめと発表、詩歌等の創作、作文（作品に対する意見文や感想文）等の観点から日常の授業内容を工夫し、充実させる。	4	4	①自分の書いた文章や意見を伝え合う時間の充実。 ②『声に出して読みたい論語』以外のテキストの検討。
		②「読書記録」を年間2回、夏休みには読書感想文と課題作文に取り組みさせる。	5		
		③様々な名文に触れ、音読を通してそのリズムや響きに親しませる。	4		
		④字力向上のため、漢字テストを実施する。また、その成果を見るため、「漢字能力検定試験」を計画し、実施する。	5		
		⑤国語辞典・漢和辞典・古語辞典を授業の中で積極的に活用し、語彙を増やすよう努める。	4		
		⑥「国語弁論大会」を計画し、実施する。	5		
社会	1. 地理的分野では、深く社会を立体的に捉えることを目標とし、資料活用や調査研究のための基礎的な力を養う。 2. 歴史的分野では、広い世界史の枠組みと流れの中で、日本の歴史を捉える力を養う。 3. 公民的分野では、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、公正な判断力を養い、良識ある市民として必要な能力と態度を育てる。	①生徒の実情を踏まえつつ一貫校の特長を生かした授業を展開する。特に中3生には、授業内外において、中学校課程学力確認試験対策を行う。	5	4	①SAクラス、Aクラスの実情に合った学習指導の推進。 ②私立中学の生徒として相応しい基礎学力の定着と伸長。 ③指導法の共有とさらなる授業力向上のための研鑽。
		②ICT教材やアクティヴ＝ラーニングの指導法を共有し、より良い授業のあり方を研究する。	3		
		③小テストを小まめに行い、基礎基本の定着を徹底する。	4		
		④長期休業を活用した課題学習の充実を図り、深い学びをさせる。	5		
数学	前倒し授業を通し、1・2年次では計算力、論理的思考を養い、3年次で数学的思考力、記述力を身につけさせる。	①<1年次>数学において必要な基本的な計算力を確実に身につけさせる。 <2年次>習熟度別クラスを実施し、計算力に加え、論理的思考能力を身につけさせる。 <3年次>コースに合わせた進度・内容をより考えて、数学的思考能力、記述力を身につけさせる。	4	4	①学習習慣の確立 ②アクティブラーニングのさらなる研究 ③数学的思考、記述力、読解力を身につけるための研究
		②種々のテストについては、基準点に満たないものは、放課後に追試を実施する。追試は強制力を持ち、これに応じない場合は、担任注意、家庭連絡等を行う。	5		
		③授業やテストに合わせ課題を提出させる。未提出者は放課後残して終わらせる。	5		
		④電子黒板の利用・アクティブラーニングを研究していく。	4		
		⑤成績不振者には、必要に応じて指名講習を行う。成績上位者対象の希望者講習を行う。	4		

理科	1. 第2学年次までは基礎学力の定着と向上に、第3学年次からは専門知識の習得に重点を置く。 2. 科学的な時事問題や発展的内容を授業に取り入れ、幅広い科学的思考を養う。 3. 観察・実験を通して理解を深めながら実験技能を習得すると同時に、自然を探究する能力と態度を育成する。	①基礎学力の定着を図るために、ICT機器の積極的な活用と小テストの適宜実施に努め、適切な課題学習も行わせる。	4	4	①ICT機器の効果的な活用と手法等の情報共有 ②実験用備品の適切な更新
		②演示実験や五感に訴える教材などを工夫し、これを授業に有効活用する。また、それらを教員間で共有することで、相互研修とする。	4		
		③6年間の理科教育を見越し、履修内容に応じて高校の学習範囲を盛り込んだ授業展開を工夫する。	5		
		④教員間の情報交換を定期的に行い、適切な指導に努める。	4		
音楽	1. 我が国や外国の音楽を学ぶことによって音楽を愛好する心情を育むと共に、豊かな感性を育む。 2. 讃美歌やコーラスコンクールの練習を通して、音感・リズム感など音楽活動の基礎的な能力を育み、皆で美しいハーモニーを生み出そうとする協力性を養う。	①歌唱や器楽の練習を通して、音楽表現の基本となる音感やリズム感など音楽の基礎的な能力と音楽性を育むよう努める。	4	4	生徒たちの授業への取り組みが良く成長を感じている。これからも、良い教材（楽曲・鑑賞）の収集に努めていきたい。
		②伝統の讃美歌を混声三部合唱で歌えるよう練習し、礼拝や入学式、卒業式、コーラスコンクール、クリスマス礼拝などで美しいハーモニーを響かせられるよう努める。	5		
		③質の高い演奏の収集に努め、鑑賞の授業の充実を図る。	4		
美術	1. 学園祭に作品を出品することで、作品制作におけるプロセスである発想・制作・展示・鑑賞の流れを理解させる。 2. 絵の具・カッターなど、使用する道具の基本的な扱い方を習得させる。	①授業ごとの到達目標を明確にし、制作を進めさせる。	4	4	①途中であきらめずに完成度の高い作品を作れるよう、ひとりひとりへの声掛けを工夫する。 ②鑑賞教材をより工夫する。
		②机間巡視で絵の具や道具の使い方などを細かく指導し理解させる。	4		
		③学園祭での美術作品展示を充実させる。	4		
技術 家庭	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	技術分野（1・2年） ①コンピューターに関する基礎的な知識と活用する技術を身に付けさせ、また情報と生活とのかかわりや情報モラルを学ばせ、情報手段を主体的に活用する能力を育成する。	4		技術分野 授業内容の理解と定着をより深めさせる。 家庭分野 学んだ内容を生活に生かすことができるように工夫する。
		②エネルギー変換の授業を通じ、生活と技術のかかわりや環境問題に目をむけさせる。	4		
		③身の回りのものづくりと栽培の技術を知り、正しい道具の使い方を身につけさせる。	4		
		家庭分野（全学年） ①自立と共生を目指し、衣食住、消費生活と環境などについての知識や技能を身に付ける。	4		
		②持続可能な社会を築くための一員として自分のできることを増やす意欲を持たせる。	4		

保健体育	<p>1. 運動における競争の経験を通して、公正な態度や、規則を守り、協力して責任を果たすなどの態度を育てる。</p> <p>2. 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。</p> <p>3. 集団での基本のあり方を理解し、他者を思いやり行動ができるようにする。</p> <p>4. 安全に集団行動がとれるようにする。</p>	①集団行動を取り入れ、メリハリをつけた行動や姿勢がとれるようにする。	5	4	<p>①基礎体力の向上</p> <p>②ICTを活用して客観的な動きの確認をしていくことが課題である。</p> <p>③話し合い活動やグループ活動を増やし、生徒の自主性をはぐくんできたい。</p> <p>④教材研究</p>
		②見学者・欠席者数の減少のため、状態把握に努める。	5		
		③体育授業の際の服装を徹底する。	5		
		④基礎体力強化のための運動を積極的に取り入れる。	4		
		⑤事故防止に努め、安全に授業に取り組める環境作りをする。	5		
		⑥生徒達の自主性を育てる。	4		
		⑦自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を高めて競技し、また記録を高めることができるようにする。	4		
英語	<p>1. 英語を聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり・発表）、書くこと、の技能を身に着けさせる。</p> <p>2. 様々な文化に対する理解と知識を深める。</p>	①英語のアウトプットを増やすため、生徒の主体的な活動を授業・家庭学習で取り入れる。	4	4	<p>①言語の5技能を身に着けさせるために、ICTの活用を模索し続けているが、高いレベルでの活用・定着までにはまだまだ至らないので、それが次年度への課題。</p> <p>②留学生との交流が再開され、英語母語話者との交流活動がなされたことは大きな喜びであった。より深い交流を進めることが次年度への課題。</p>
		②文法・語法を、将来正しく英語を使用できることを見据えて、指導する。	5		
		③English Workshopや留学生との交流活動など、英語を通して様々な文化を学ぶ機会を取り入れる。	5		
		④実用英語技能検定を積極的に受験させる。 2年次 SAクラス 英検3級合格・準2級挑戦 Aクラス英検4級合格・3級挑戦 3年次 SAクラス 英検準2級合格・2級挑戦 Aクラス英検3級合格・準2級挑戦	4		

英会話	生徒たちの基本的なコミュニケーション才能を育てている。生徒同士・職員との「思いやりのある、親切なやりとり」ができるようにする。「感情を表す表現」を学び、自分の感情を伝えられようにする。発表するちからを育てている。	①情報のやり取り、感情を分かち合うアクティビティ	5	5	<p>①生徒によってはペアワークコミュニケーションが難しい場合がある。公平な評価のための情報交換と共通課題を作成することが課題。</p> <p>②生徒のレベルに合わせた教材の選定</p> <p>③限られた時間数の中で可能な、効率の良い学習活動の模索</p> <p>④For students with behavioral/emotional needs, pairwork communication can be difficult. Creating graded work for verbal information exchanges is a frequent challenge.</p> <p>⑤Finding corebooks/materials to introduce social/culturally appropriate communication skills that matches the students language level is a challenge.</p> <p>⑥Creating a time sensitive plan for all grade-levels to create, practice and give a speech is a challenge especially since the lessons are only once a week.</p>
		②コミュニケーションのための表現や、社会的・感情的な表現を学べる教材を使う	5		
		③ 教員の作成した教材も使い、発表する力を育てる	5		
聖書	聖書の中の豊かな人間理解に触れながら、どんな人も神に愛され受け入れられている大切なかけがえのない存在なのだということに気づいていくことによって、他者との共存へと導かれていくことを目指す。	①聖書を土台に、キリスト教の基礎知識を学ぶ。	4	4	<p>聖書が、今を生きる生徒たちに何を伝えようとしているのか、考え、学ぶ機会となるような授業を実践していく。</p> <p>建学の精神をどのように学ばせるか、検討していく。</p>
		②旧約聖書の基礎知識を手がかりに、人間について多様な視点で考える力を獲得する。	3		
		③福音書の学びを通して、自分や他者について多様な視点で考える力を獲得する。	5		
総合	<p>1. 自ら課題を見つけ、自から学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる。</p> <p>2. 自らを深く見詰め、真理を探究し謙虚に自己の生き方を考えることが出来るようにする。</p>	①教科学習や諸行事・部活動など、すべての教育活動を通して培っていく。	4	4	<p>ICT教育やタブレットとを上手く融合させ、デジタルとアナログの両面から、生徒の資質と能力を育む方策等を模索する。</p>
		②総合学習の時間を通して、主体的に学習し、適応していく能力を育てる。	4		
		③礼拝を通して、人類や世界を視野においた価値観を養う。	5		